

<敬老福祉部>



寿賀者の皆さんへ小学生からのお祝いメッセージ

自治会主催で3年前から喜寿、米寿、白寿の自治会員の方を対象に敬老祝賀会を催してきました。今年も9月20日を予定し地区長さんにも実行委員に参加していただき準備してきましたがコロナ禍による緊急事態宣言が発令されており中止とさせていただきます。

今年も喜寿25名、米寿10名の寿賀者の方がいらっしゃいます。

寿賀者の皆様、おめでとうございます。

なお、寿賀者の皆様には記念品をお届けさせていただきました。

これからもますますお元気でご活躍されますことを祈念いたしております。

残念ながら敬老祝賀会での紹介はできませんでしたが、弥生小学校の6年生の子どもたちが、お祝いのメッセージを届けてくれました。

代表して「小原悠輔さん」と「松本みなみさん」からのお祝いメッセージを紹介します。



『喜寿のお祝いバースデーカード』

弥生小学校6年1組 小原悠輔



ぼくのおじいちゃんとおばあちゃんは、岡山県に住んでいます。ぼくのお母さんが、「おじいちゃんが今年の8月8日のお誕生日は、77歳の「喜寿」だからお祝いのメッセージカードを作ってあげたら喜ぶかな。」と言いました。

ぼくは、喜寿とは何だろうと思いました。77歳だからラッキーな7が二つあるからなのかと最初思ったけど、インターネットで調べると喜寿の「喜」の字を草書体というのにすると漢字の七十七に見えるからだと知りました。さらに調べてみると60歳の還暦、70歳の古希、80歳の傘寿、88歳の米寿、90歳の卒寿、99歳の白寿、100歳の百寿があり、長寿の節目を祝う誕生日はたくさんあることが分かりました。

早速、画用紙を使って、開いたらケーキが飛び出すお祝いのメッセージカードをおじいちゃんにわたしました。弟や妹も手伝ってくれました。おじいちゃんは、とても喜んでくれて、ぼくもとてもうれしくなりました。ぼくは、このメッセージカードを書いてよかったなと思いました。おじいちゃんの次の長寿のお祝いは3年後の傘寿なので、またお祝いしたいと思いました。

ふだんは、おじいちゃんとおばあちゃんとはなれてくらしているけれど、心は一つだと思います。ぼくにとっての大切な存在です。ぜひ、百寿のお祝いをしたいと思いました。

ぼくのふるさと「弥生が丘」の長寿の方、今年節目の誕生日を迎えた方、ご長寿おめでとうございます。そして、いつもぼくたちを見守っていただいて、ありがとうございます。いつまでもお元気で、長生きしてください。

『おじいちゃん、おばあちゃん、いつもありがとう。』

弥生小学校6年1組 松本みなみ

私は、いつも優しく見守ってくれるおじいちゃんとおばあちゃんに「ありがとう」をたくさん伝えたい。もちろん、いつも「ありがとう」は、伝えている。でも改めて伝えたくなった。

私のおじいちゃんは、いつも学校へ行く時ボランティアで「おはよう」と話しかけてくれる。はずかしいので大きな声ではないが「おはようございます」と返している。たったこれだけの会話なのにたくさんおしゃべりしたように感じるのだ。

おばあちゃんは、いつも優しく接してくれる。おばあちゃんの家で私が「何かお菓子はないかな。」と探していると、「みいちゃんの好きなようかんがあるよ。」と言って出してくれる。孫の好物だからと買って取りおいてくれているのだ。

このようなことは、小さいころからしてもらっていることだから「当たり前」と思っていたが、小学5年生の時自分がとても幸せ者ということが分かった。それは道徳の授業で「その思いを受けついで」や「ごめんね、おばあちゃん」を読んでとても感動した時だった。それから私は、祖父母に積極的に話しかけるようになった。おじいちゃんは、私が好きな本について語るのをたくさん聞いてくれた。とても満ち足りた感じがした。

他にも、私が住んでいる地域は、いろいろな人があいさつをしてくれている。ボランティアでテニスを教えてくれる人たちは、おじいちゃんやおばあちゃんとは思えないほど元気だ。たくさん話しかけてくれたりするから、参加したたくさんの人が笑っていた。

つまり私は、敬老の日だからという理由で「ありがとう」などを伝えるのではなく、心をこめて純粋に伝えたい。これからもいろんな人に心をこめて感謝の気持ちを「ありがとう」の言葉で伝えていきたいと思います。

「おじいちゃん、おばあちゃん、いつもありがとう。」

